

=====
2010.7.27

NPO法人東京高次脳機能障害協議会 — <http://www.brain-tkk.com/>

T | K | K | メ | ル | マ | ガ | vol.15

.....
- 22年度の活動が始まりました

～目次～

1. T K K活動
2. 行政等の活動

.....
-----∞
【1】 T K K活動

- ∞
- 4月17日（土）午後、運営委員会、VIVID事務所
22年度第1回目の会議（昨年度総括、今年度活動等について）
 - 6月19日（土）午後、理事会、定期総会、世田谷ボランティアセンター
21年度活動報告/決算、22年度方針/予算を審議し承認された
 - ・21年度のトピックスはスウェーデン福祉視察研修、各種団体から助成を受けること
によって実現し、10名の参加者で研修旅行を無事終わりました。
 - ・NPO法人となって実質的に3年目となる22年度は従来の活動、事業を定着・拡充
するとともに、今後の活動の方向性を固める年となります。
 - 家族相談交流会、7月3日（土）午後、都身障
今年度1回目の相談会を初めての試みとして土曜日に開催、3組5名の方に参加頂
きました。やはり平日よりは参加頂きやすいようです。
 - 今後も8月11日（水）、9月4日（土）に開催しますので、この場を活用ください。
http://www.brain-tkk.com/index/show_information.php?boardAct=view&readNum=41
 - [講座] 高次脳機能障害のグループ訓練、9月11日（土）、10月9日（土）の両日、
神田グリーンホール

全国各地のリハビリセンター、病院、通所施設で実施されたグループ訓練および
家族向けのケア講座の実践報告書、中島恵子編著「高次脳機能障害のグループ訓
練」が2009年10月に発刊されました。

本講座はその中の4編の実践報告について、各プログラムの推進者・報告者から直接講義していただきます。

リハビリ、グループ訓練に関心のある、セラピスト、心理士等の専門家（あるいは専門家を目指している方々）、また高次脳機能障害者向けの各種施策を検討・企画されている行政・福祉関係者の参加をお待ちしています。

http://www.brain-tkk.com/index/show_information.php?boardAct=view&readNum=43

【2】行政等の活動

＊ ＊

-
- 22年度第1回高次脳機能障害相談支援研修会、6月21日午後、東京都社会福祉保健医療研修センター、参加者：都内福祉関連部門・機関関係者 約300名

講演1 「高次脳機能障害の基礎知識とリハビリテーション」

首都大学東京大学院教授 渡邊 修氏

- ・高次脳機能障害者とその家族の主な相談内容と対応機関について
- ・高次脳機能障害とは（疾患と症状について）
- ・脳のしくみを簡単に理解する（部位と働きについて）
- ・高次脳機能障害に対するリハビリテーションは・・・
（それぞれ症状に対する対応の工夫、注意点等）
- ・相談支援のポイント
（都内の障害者雇用を支援する機関と相互連携 図）
（きょうされん東京支部中途障害者部会 図解）等

講演2 「高次脳機能障害者のリハビリテーションについて」

- ・「脳卒中早期リハと地域連携」
- ・「高次脳機能障害者のリハビリテーションについて」
- ・「玉堤分場からの報告～専門職との付き合い方を中心に～」

講演2の要旨は次の通り =====高橋（記）

■武蔵野赤十字病院リハビリテーション科部長 高橋伸一氏

- ・2004年の「高齢者リハ研究会報告」が基礎になっている
- ・高次脳機能障害者の対応（元の環境に戻す事が最善、転院・転室は混乱を招く）
- ・急性期・回復期・維持期に求められるリハ
- ・北多摩南部脳卒中ネットワーク研究会と病院と各施設との連携の必要性
（地域連携診療計画書の作成、地域連携パスの流れと加算、在宅を支援すると言う共通目標で）等

■地域活動・相談支援センターかさい相談支援員 松島宗明氏

- ・江戸川区の地域性とセンターかさいの事業概要
- ・利用者の実態（年齢、原因、発症からの機関、利用状況、相談内容等）
相談内容では昼間の居場所（日中の過ごし方が大きな問題）
- ・支援内容の紹介（専門相談会の状況、家族の集い、随時相談、グループ訓練）、特に専門相談会は他機関との連携強化に有効、アドバイスが有効。
- ・他機関との連携、ネットワーク会議の開催
- ・普及啓発活動（講演会の実施）
- ・課題 (日)各機関に専門相談会の対象者がいないかアプローチしていく
(月)関係機関の連携強化＝リーフレット・通信の送付
(火)家族会の立上げ
(水)利用者増加への対応
(木)ひきこもり等、来所出来ない方への訪問支援
(金)ニーズの掘り起こし等

■世田谷区立岡本福祉作業ホーム玉堤分場 総務課長 上原絹代氏

- ・玉堤分場の背景（1992年スタート、クッキー等販売、就労移行支援、就労移行B型移行、14名中11名が高次脳機能障害）
- ・作業支援の特徴（シンプルに、全員で、作業を手段に-利用者が講師、役割を全員で）
- ・就労支援（あらゆる活動を就労に結び付ける…挨拶、報告、納品同行、パソコン、スーツデー等）
- ・安心・安定して通所するための生活支援、保健衛生・給食の実施している
- ・玉堤の支援を支える大きな助っ人（専門医への相談、OT、PT、ST、臨床心理士、運動指導員）
- ・良い点（生活リズムの確保、共通項目で解り易くなる、環境調整で特性を出にくく、活動の幅が拡大、チームでアプローチ、専門職の活用）
- ・課題（利用者同士の関係どのように次につなげるか、加齢による機能低下、他施設移行時期の見極め、他機関との連携-特に介護保険ケアマネと、三障がい受入れを集団で生かすには）等

●22年度第1回高次脳機能障害者支援普及全国連絡協議会、6月30日午前、国リハ

- ・厚生労働省障害保険福祉部 部長挨拶
- ・国立障害者リハビリテーションセンター 岩谷総長挨拶
- ・厚生労働省障害保険福祉部 高城 亮 課長補佐 補足
- ・全国10のブロックの統括自治体から
昨年度の経過報告と今年度の計画について
- ・厚生労働科学研究費の分担研究者からの研究発表

==== 高次脳機能障害者支援普及事業の全国の拠点関係者が集まり、昨年度の活動報告および今年度の運営方針が話し合われる全国連絡協議会を傍聴しました。6月24日をもって、ようやく全都道府県に支援拠点が設置されました。モデル事業やそれ以前から支援活動を行っているところなどとは当然大きな差がありますが、情報収集や情報交換を行い、その地域の特性も生かした支援を広げていってほしいと願います。

厚生労働省の話ですと、自治体の理解、サービス提供事業所等の理解、医療従事者・障害福祉従事者・専門家等の理解は十分ではなく、就労・就学支援、家族の相

談支援などは不満足な状況にあるだろうとのこと。

その状況把握のために今年度は、拠点機関への実態調査を行うそうです。

また青少年期の就学支援、診断基準に含まれていない失語症の実態調査、高次脳機能障害者家族の介護負担の研究発表もありました。

失語症者の支援は介護サービスが中心であり、若年は自立支援法と分かれており、年齢別に検討する必要があると発表されました。

「制度や年齢で分断されない一貫したサービスを」と言い続けてきていることが理解されたのでしょうか。家族の介護負担については、全国で15カ所の支援拠点180人の家族を対象とした調査研究を行い、社会行動障害があると主介護者の介護負担感が増大し、うつ傾向を示しやすいとし、日本におけるファミリーサポートシステムの構築が必要と述べられました。以前から「家族の心の支援」を訴えてきましたが、この成果が支援に活かされることを期待します。==== 今井（記）

●22年度第1回区西南部地域リハビリテーション支援センター講演会

7月6日、JR東京総合病院

講演『リハ医療に関する2010年診療報酬改定について』

初台リハビリテーションセンター 石川誠氏

==== 講演会の中で、次の報告がありました。東京都の22,23年度の高次脳機能障害者への支援策として、高次脳機能障害のリハビリの中核を担う病院にアドバイザーを配置し、リハビリ技術や個別支援の相談に応じるとともに、医療従事者を対象とした人材研修を行うモデル事業を実施する、とのこと。

このモデル事業は区部、多摩の2カ所で実施する計画で、区部はこの区西南部になり、アドバイザーを配置する病院は玉川病院(世田谷)になったとのことです。また区西南部での脳卒中の連携パスを今年度中に何とかしたいとのこと。脳卒中者の中にも高次脳機能障害者は多くいるので、その成り行きに注目したいと思っています。==== 今井（記）

○第7回 相談支援体制連携調整委員会、8月4日夜、都心障

議題：○22年度支援普及事業の実施予定

○地域支援ハンドブック作成部会について 他

○葛飾区主催 高次脳機能障害者講演会、ウェルピアかつしか1階

・8月7日（土）午後、「高次脳機能障害者のデイサービスの進め方」
渡邊 修氏（首都大学東京 教授）

・9月4日（土）午後、「高次脳機能障害者の作業所から地域生活の支援を考える」
野々垣 睦美氏（NPO法人脳外傷友の会ナナ クラブハウスすてっぷなな）

問い合わせ、申し込みは、葛飾区地域活動支援センター03（5698）1336 まで
以上